

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)	良く なっている	タクシー運転手	来客数の動き	・秋口に入って土日を中心に北陸新幹線を利用した観光客が多く、観光の仕事が多いため好調である。夜の街も県外の人が多くなっている。
	やや良く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・テレビCMの影響も大きいと思うが、来客数の増加が最近見て取れる。特に好調に推移しているのが、おにぎりやファストフード、今話題のスムージーといった個性のある商材、独自商材、健康商材といったものである。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・当店舗ではほぼ全時間帯の前年比が100%を超えている。販売商品においても高単価のレンジアップラーメンなどの売上が好調で、数年前までの昼食の買い控えなどがなくなったように感じられる。コンビニ業界全体で見れば店舗数が増加しており、飽和しかけている感が否めないが、その中でもここ数か月は好調に推移している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新規の取扱車及びマイナーチェンジ車の増加により、3か月前に比べると受注、販売共に好調に推移している。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・10月の販売量は前年同月比80%であり、7月の販売量は前年同月比71%だったので、3か月前と比較して上向きである。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・北陸新幹線開業効果で、宿泊客は増加した。宴会も大きな学会や大会が多く順調に推移しており、売上は前年に比べ2割ほど伸びている。しかし婚礼は競合激化で減少し、レストランも新幹線効果を除くと地元客のディナータイム利用が減少しているように感じる。
		都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・宿泊部門は北陸新幹線開業以降、インバウンド及びビジネス客の増加により堅調に推移している。レストラン部門の個人、法人利用に関しては足踏み状態にある。また宴会部門、婚礼部門も同様の傾向にある。
		タクシー運転手	販売量の動き	・大きなイベントもあったが、観光客、ビジネス客ともに増加している。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・毎年9～10月はキャンペーン実施月として契約申込は増加傾向にあるが、今年は前年比30%増で推移しており、個人需要の力強さを感じる。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・放送、通信サービス共にここ数か月好調を維持している。競合他社の攻勢も弱まり、契約者数の累計も純増が続く。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示会への来場数やショールームへの来場者が増えている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・例年と同じく、寒さとともに防寒具を探す傾向にある。いつもの光景である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・当商店街の状況は変化なしではあるが、一部には若干好転の兆しがみられる店舗もある。
一般小売店〔事務用品〕（店員）		販売量の動き	・商品の値上げが若干影響し、売上額が横ばい状態である。	
一般小売店〔書籍〕（従業員）		来客数の動き	・例年は年末に向けて売上が徐々に上がってくるのだが、来客数が伸びず売上もあまり変わっていない。	
百貨店（営業担当）		来客数の動き	・10月初めは観光客も多く前年を上回る数字で推移し、目的買いが多くみられたが、下旬ごろから来客数が極端に減少し落ち込んでいる。プレミアム付商品券の使用期限が今月末に迫っており、まだ持っている人の駆け込みを期待していたが、もう使ってしまったのか、その反動で予想通りにはいかず、伸び悩んでいるのが現状である。	
スーパー（店長）		単価の動き	・来店客の客単価的には落ちていないが、生鮮食品の動きがあまり良くない状況である。今年は気候的に寒くなるのが早いようで、秋商材の動きが今一步であった。	
スーパー（総務担当）		単価の動き	・売上はほぼ前年並みで推移している。しかしその内容は1品平均単価が伸びているためであり、逆に1人当たりの買上点数は減少している。景気は決して良くないと思われる。	
スーパー（総務担当）		販売量の動き	・値上げなどにより1点単価は上がった状況ながら、既存店ベースでは買上点数、販売量は昨年を下回っている状況が続いている。	

	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・イベント規模や天候のよし悪しによって、日曜祭日の数字に多少の上下はあるが、ウィークデーの売上前年比などをみると横ばいの状態であり、変化はみられない。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・北陸の中でも、アウトレットモールなどが進出してきた当地が、特に際立って衣料品の落ち込みが大きい。ほとんどの衣料品店が苦戦を強いられていると思われる。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・当店舗の実績をみるとやや悪いように思うが、おしなべて横ばいとみるのが妥当だと思う。もう少し良い数字が出てほしいと思いつつ、やっぱりだめだと嘆いている状況である。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・販売数量が下がっているが、商品単価が上がっているため、横ばいである。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・月初に例年通り公共施設を使つての展示会を開催したが、来場数は前年と変わらないが販売台数は前年の60%程度であり、景気は良くないと思う。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・8月以降、出張展示会など積極的にイベントに参加しているが、予想ほど売上に影響していない。
	住関連専門店（店員）	販売量の動き	・この2か月間は若干の回復を見込んでいたが、今月は回復には至らなかった。
	その他小売 [ショッピングセンター]	来客数の動き	・肌寒くなり、秋物衣料、高額なフォーマルウェアが動き出したが、例年に比べ販売量が少ない。食品の値上げが続いているため、購入単価は前年を2%ほど上回っているが、買上客数が3%減と落ち込んでいる。切り売り商品や特売を上手に利用し、購買を工夫している様子である。
	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・今夏の大規模商業施設の相次ぐ開業により、来店客が分散している様子である。平日は昨年並みではあるが、週末の集客が割り込む傾向が続く。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・北陸新幹線開業後、好業績が継続している。秋の観光シーズンに加え医学系の学会の影響もあり、昼、夜共に来客数は例年比120%を越える。
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・旅館宿泊者数は増えていると聞くと、地元商店は目に見えて恩恵を感じていない。プレミアム付商品券の効果もあまり感じない。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・10月の入込人数も前年比20%ほど増えている。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比総売上135%、宿泊者数126%、宿泊単価107%である。14名以下の個人客が前年比149%と大幅に増加し、15名以上も108%と好調である。客室稼働は95%と高水準を維持している。北陸新幹線効果はまだ続いている。
	旅行代理店（所長）	販売量の動き	・受注額が前年比横ばい状況である。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・前年同期比でみると、3か月前から今月まで、ほぼ横ばいの水準の来客数で推移している。
	その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・積極的な見学や入会の問い合わせなどがなく、全く良くなる気配が感じられなかった。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・美容業界では、前年の来客数を維持出来ればまずまずという雰囲気になっている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・9月の受注額は目標数字に対し未達であり、前年同月比2割の減少に終わったが、今年度の累計では2割弱の増加をキープしている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・大きな変化が見られない。ただ住宅用地の動きに多少変化は見られるものの、景気が良くなっているまでの実感がない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年以上に催事やイベントで集客に努力しているが、昨年の売上を維持するのが難しい状況だ。プレミアム付商品券の効果も1か月ほどで、購買力は落ちてきている。
	一般小売店 [精肉]（店長）	単価の動き	・値上がりによって、高単価商品の動きが鈍くなっている。安い物でそれを補うだけの数字を取れておらず、売上が上がってこないのが現状である。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・プレミアム付商品券の使用期間の終了が目前に迫り、最後の駆け込み需要を期待していたが、先月に続いて生活必需品の購入に使用している消費者が多い。しかし、プレミアム付商品券は9～10月の販売数量及び売上高をけん引し、下支えとなったことは間違いない。7～10月の4か月連続で前年実績は超える。

	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・通常この10月を考えると、ファッション的には冬のコートやブーツといったトレンドの動きが出てくるのだが、客からの声では、ファッション的なものはそのうち安くなるので安くなってからで良いから、その分を食品関係で少しぜいたくをしたいという使い分けがある。いずれにせよ財布のひもは固くて、毎日食べるものだけはちょっとだけでもぜいたく感を味わいたいというのが、現状の客の動きであり声である。	
	コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・3か月前のプレミアム付商品券フィーバーの月が良過ぎたということなのだろう。	
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・1週間通じて、平日の通行量が減少していると感じる。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・この時期、地酒などはひやおろしや初しぼりの仕込のニュースが新聞などでよく見受けられるせいか、地酒を求める客の割合が普段より多くなっている。売上全体としては、前年の10月と比較して若干落ち込んでいるといったところである。	
	一般レストラン（統括）	それ以外	・北陸新幹線開業効果により景気は良くみえるが、人手不足により時間給アップが進んでいる。売上高は維持できるが、時給相場の上昇により残る利益が悪化し始めている。下がった利益分をどうやってカバーするのが見通しが立たない状況である。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・家族での複数台購入がだいぶ減ってきているように思える。原因は新商品発売を控えての買い控えと思われるが、月末になって少しずつ新商品も出てきたが今のところ販売数が特別伸びているわけではない。	
	通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・8月ごろから比べると来客数が減っている。新商品も発売されているが、昨年のもものと比較すると動きが悪い。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・イベントの来客数、問い合わせ共に少なくなっている。同業他社のイベント活動も少なく、客の動きもあまり見えない。例年であればイベントの多い時期であるが、今年は非常に少なく、今後の契約数増加も見込めない。	
	悪くなっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・当店は常連客の年齢層が高くなり天気の変化や体調などに左右されるため、今月は先月より最悪となり頭を痛めている。婦人服店の経営者からも、先月も今月も非常に落ち込んでいると耳にする。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
(北陸)	やや良くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・欧米市場は横ばいであるが、国内市場の受注が伸びている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・非衣料関係はどちらかという安定しているが、衣料については非常に厳しく、小ロットで回しているような状況である。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が横ばい傾向である。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・当社も発注している部品メーカーの状況を見ると、少数のメーカーは受注が集中し生産が増加しているものの、多くの同業者は新型シーズンを過ぎ、稼働率は低い状態が続いている。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・公共工事の発注が県や市においても盛んになってきたが、工事場所の関係から、受注できた業者とできない業者に分かれている。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・大都市では受注価格競争が緩和しているが、地方では一部に安値受注業者が見受けられ、受注価格競争の激化傾向が起きている。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・荷動きは良くもなく悪くもない。特に変わりが無い。
		金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の業績は良好なものが多いが、先行きを考えると人員の確保や人件費の上昇などを不安視する発言も出てきている。資金需要についても以前は設備投資の需要が強かったが、やや巡感が出てきており、事業性融資の伸びはやや鈍化している。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞いた話では、月によりそれぞれの業者の動きは違うのだが、やはり常に忙しい業者と不景気だという業者が半々であった。
		司法書士	取引先の様子	・会社の解散より会社設立が多いという、ここ数年なかった状況になっており、久しぶりに高額事業資金の融資案件もあった。

	やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	それ以外	・輸入原材料の仕入れ単価の上昇により、一層収益性が悪くなってきている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・各分野で在庫調整の動きが見られ、受注量の確保が難しくなっている。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・前年と比較して特に中国向けの輸出の出荷が減少しており、荷動きが減少している。
		金融業（融資担当）	受注価格や販売価格の動き	・取引先の話では、全般的に仕入れ価格が上昇傾向との声が多い。
		税理士（所長）	取引先の様子	・中小企業が大手から受注する案件のエンドユーザーだが、やはり中国向けのキャンセルや計画変更が響いている。今は他の地域への計画変更の時期に入っているのではないかと思う。予定はあるが具体的に話が前に進まない状況で、設備投資に備えた工作機械の受注は、今日立って中小企業の間では減少し、むしろ同業者間の競争が激しくなっている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連 (北陸)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・産育休業員の需要が増えている。期間限定の職であり、将来的に安定しないため求職者が飛びつかない。マッチング率が悪い状態である。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・年末までの短期や単発の仕事の求人募集広告を出しても応募者が少なく、良い結果につながらないことが少なくない。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・1回あたりの掲載件数がほとんど変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・10月の求人広告売上は、前年同月比9割である。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部の事業所は良くなっているとの声も聞かれるが、仕事量に変化はないものの利益がないという事業所の声も多いため、全体として変わらないと感じる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と新規求人数を比較した場合、マイナス4%という状況であるが、まだ非常に高い水準にある。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・大手企業の求人は終了したが、中小企業の製造業やIT企業を中心に引き続き問い合わせや追加求人が来ている。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・10月の求人広告掲載数は昨年並みで大きく変わらないが、昨年大きな売上ウエイトを占めていた自動車関連の期間工募集の大型広告が少なく、金額は落ち込んだ。今年に入ってのトレンドであったパート、アルバイトから正社員への募集枠の移行もだいぶ弱まりが見られ、昨年同期とほぼ同じ内容になっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で約13%程度の減少となった。本年4月以降、2けたの減少は初めてである。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・依頼の案件に期間が比較的短いものや催しの期間だけのものなどが多い。急な人集めが難しいのは、求職者の絶対的不足が原因である。
		悪くなっている	-	-